

胆石症の既往で冠動脈性心疾患リスクが 23%上昇

胆石症は心臓血管病と関連することが知られているものの、胆石症の既往と冠動脈性心疾患の発症を予測できるかについては確立していない。本研究では米国の医療関係者を登録した 3 件の大規模前向きコホートをを用い、胆石症の既往と冠動脈性心疾患の発症リスクの関連について検討した。

対象となったのは、試験開始時にがんや心臓血管病が認められない 269,142 例で、約 30 年の追跡期間中に 21,265 例が冠動脈性心疾患を発症した。年齢調整後の解析により、胆石症の既往は冠動脈性心疾患のリスクと有意な関連が認められた。すなわち既往あり群の既往なし群に対する調整後ハザード比は、看護師健康調査が 1.15、看護師健康調査 II が 1.33、保健医療従事者の追跡研究が 1.11 であった。肥満や糖尿病、高血圧を有する胆石症既往群よりも、非肥満、非糖尿病、非高血圧の胆石症既往群で冠動脈性心疾患の発症リスクが高かった。さらに、2015 年 10 月までの PubMed および Embase に掲載されている 4 件の前向きコホート研究を抽出し、前述の 3 コホートと合わせてメタ解析を実施した（総対象者数 842,553 例）。その結果、胆石症の既往は冠動脈性心疾患の発症リスクの 23%上昇と関連していることが示された。

したがって、胆石症の既往と冠動脈性心疾患のリスク上昇に関連があることが示された。

出典：Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology. Published online Aug. 18, 2016; doi: 10.1161/ATVBAHA.116.307507